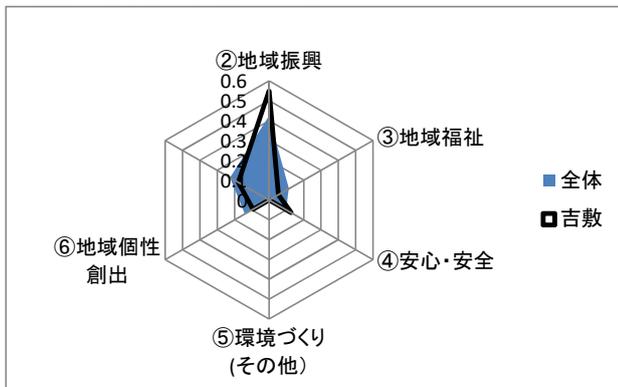


吉敷地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和5年度)

■地域の情報

地域人口	14,547人	自治会数	16
世帯数	6,394世帯	自治会加入率	78.2%

※数値は、令和6年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	9,914,000 円
交付金決算額	8,837,836 円
その他収入	2,607,830 円
交付金決算額／配分額	89.1%

各分野の決算

①協議会運営	6,673,425 円
②地域振興	2,620,229 円
③地域福祉	255,566 円
④安心・安全	604,443 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	442,380 円
⑥地域個性創出	849,623 円
決算総額	11,445,666 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

住民一人ひとりが主体的に地域の中でふれあい、ともに支え合う土壌をつくりあげていくことが重要であり、「若い世代とともに築く 笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷」をスローガンに、次の5つの分野に地域課題を整理するとともに、地域としてこれから目指していく将来像を掲げ、課題解決に取り組んでいきます。

- 活動目標1「地域振興」ふれあいと交流による元気で住みよいまち
- 活動目標2「地域福祉」ともに支え合い心豊かに暮らせるまち
- 活動目標3「安心・安全」みんなで協力してつくる安全で安心なまち
- 活動目標4「環境づくり」美しい自然をみんなで守る快適なまち
- 活動目標5「地域個性創出」固有の歴史や文化による個性あふれるまち

■総括

「吉敷まちづくり計画」をもとに、課題解決に向け地域で活動している様々な団体や行政と連携しながらまちづくりに取り組みました。今年度は、コロナ禍が明け、従前どおりの事業展開ができた年だったと思われず。地域住民の協力のもと進めていくものであるまちづくりの「自分たちのまちは自分たちでつくる」という精神は、コロナ禍による4年間の事業の停止の影響は大きく、地域住民の個々の関係が寸断されているように感じました。

その中でも、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よしきフォトコンテスト」では、年を重ねるごとに応募作品の増加が見られるようになり、事業が定着してきたと感ずることができました。また、様々な交流会ははじめスポーツ事業や秋の祭り「吉敷ふるさとまつり」では、実行委員会メンバーにより、4年前の形で開催することができました。しかし、4年間の空白は、事業のあり方や地域住民の関わり方に影響を及ぼすものもあり、新たな課題も見つかりました。仕切り直しをする時が来たと、新たな課題として受け止め、地域住民の声を聞く機会を作りながらまちづくりに取り組みます。このように、地域住民や地域づくり関係団体の参画による実行委員会は、地域課題の解決に向けての話し合いの場となってきました。同様に、様々なスポーツ交流大会や、講演会などもコロナ禍の中で従前どおり開催することができました。

また、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が地域住民の看過できない課題となっていることから取り組んでいるコミュニティタクシーは、実証運行を終了し、「吉敷地域コミュニティタクシー運行協議会」を設置し、本格運行を開始しました。特に利用促進を検討し取り組んできた成果が、利用者数の増加としてじわじわ現れてきています。また、本格運行に伴う、地域負担については、この事業が地域全体で取り組むことから、地域の商工会や該当町内会との連携により、協賛金を募ることも協議され、協賛金をいただくこととなりました。

地域情報を広く地域住民に伝えるために、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て設立された広報委員会は、地域の情報の収集や発信に努めながら7年が経過し、この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、作る側と読む側の双方向で意見交換ができるコーナーを新たに設けるなど、広報紙を手にとっていただけるよう工夫を重ね、取り組みました。地域住民からは一定の評価を得ています。

地域の史跡等の取り組みについては、栄華を極めた大内氏にゆかりのある肥中街道沿線の他地域との交流を図るとともに大内氏の歴史講演会を開催し、地域の歴史を知るきっかけづくりにも取り組み、多くの地域住民の評価を得ました。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会運営
② 地域振興	ふれあいネットワーク、コミュニティタクシー運行事業、夏まつり・ふるさとまつり、よしきフォトコンテスト、人材発掘に向けた交流事業、広報活動、人権学習の推進、こどもドリームプロジェクト、ホテル観賞のタベ、動画による活動団体の紹介
③ 地域福祉	大運動会・多世代交流グラウンドゴルフ大会、えがお食堂よしき、

④	安心・安全	地域防災体制の充実、交通安全・防犯対策、反射鏡の充実、青少年の健全育成
⑤	環境づくり	環境づくり、ホテル増殖・放流事業
⑥	地域個性創出	文化振興

■重点的に取り組んだ事業

事業名	コミュニティタクシー運行事業	決算額	81,600円
①	目的	旧出張所・公民館跡地を積極的に活用するために、跡地を拠点としたコミュニティタクシーの運行に引き続き取り組み、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。	
	実施内容	旧出張所・公民館跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーの運行を実施し、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。	
	実施時期	通年	
	参加人数	地域住民	
	成果	高齢化の進展により、免許証返納の動きが加速化することから、自家用車に代わる移動手段としてコミュニティタクシー導入のための素地として、吉敷地域の实情に見合ったコミュニティタクシー実証運行協議会を立ち上げ、実証運行に取り組み、実証運行終了後は、本格運行協議会を設置し、本格運行に沿った運営を実施しました。本格運行に移行すると、地域負担が生じるため、関係者がコミタクの必要性について再確認するとともに、運営の継続のために協議を重ね、吉敷地域に沿った形を作りました。乗車率のアップについては、継続して取り組み、今年度は、運転手さんを含む関係者の交流会を設けるなど、工夫をしながら、利用者側、運営側からの意見を聞き、今後活かしていくこととしました。	
	評価	跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーのルートに該当する町内会・自治会との連携を取りながら、本格運行に取り組みました。コロナ禍の影響から、思わしくなかった乗車率も工夫を重ねるなど、乗車率のアップに取り組みました。その結果、コロナ禍も明けたこともあり、増加傾向がみられるようになりました。	
	今後に向けて	本格運行協議会に、地域の商工会をメンバーに入れるなど、地域で取り組む事業として位置付けています。今後も事業が継続できるように、地域に沿った運営に取り組みます。事業費の3割が地域負担となる本格運行において、少しでも負担軽減になるように、引き続き、乗車率のアップには努めます。	
事業名	地域食堂「えがお食堂よしき」	決算額	0円
②	目的	地域の子どもや保護者、高齢者など誰でも気軽に利用できる「地域食堂」を開設し、近年希薄となっている地域の住民同士の交流やふれあいの場を復活させ、子どもやひとり親世帯の親などが参加することにより地域の人たちと知り合い、ともに支え合い心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。	
	実施内容	近年希薄となっている地域住民どうしの交流やふれあいの場を復活させ、ともに支え合い心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。	
	実施時期	通年	
	参加人数	40人	
	成果	明日花プロジェクトが実施している「エール弁当配付」の事業には、昨年度に引き続き積極的に参加するとともに、地域のボランティア活動である「ふれあい型給食事業」の9月再開を機会に、10月からえがお食堂よしきもコロナ禍前の課題を考慮し、配食数を限定し再開しました。当地域の事業目的が、地域食堂を通じて孤食を 방지、人材(ボランティアスタッフ)の発掘や育成、多くの地域住民が食事を通じた交流を楽しむこととしていますが、来場者は食事と交流を楽しむことができました。	
	評価	地域住民のコロナ禍の影響を受けているひとり親家庭と、同じくその影響から需要が落ち込んでいるお弁当屋さんへの支援を目的にした「エール弁当」を進めている明日花プロジェクトの事業に積極的に参加するとともに、今年度は、コロナ禍前と変わらないスタッフの協力も得ることができ、えがお食堂よしきの再開ができました。コロナ禍前までの課題を実行委員会で検討し、配食数に制限を設け再開しました。スタッフも含め、食事に来られた地域住民の笑顔から交流の場の提供ができていると思われれます。	

	<p>地域の温かい気持ち(募金、寄付など)から成り立つこの事業の意図が、無料の食堂として来場している人が多い中、どれだけ浸透しているか。その無料の食堂開設のために、毎月1ヶ月間ボランティアスタッフが活動する意味が見出せなくなる気持ちが大きくなっていることが危惧されていることが、令和元年度の課題となっていました。配食数を限定するなど工夫をしながら再開したえがお食堂よしが広く来場者の皆さんからアンケートを取り、この事業の推進をすべきかどうか等も含め、協議・検討を進めていきます。</p>		
<p>③</p>	<p>事業名</p>	<p>動画による活動団体の紹介と、地域の景色や行事の記録</p>	<p>決算額 50,000円</p>
	<p>目的</p>	<p>団体活動や地域の景色・行事等を、動画等により、それぞれ団体活動の拡充と様々な場での紹介に努めます。</p>	
	<p>実施内容</p>	<p>団体活動動画等の活用による団体活動のPRと拡充を図り、地域住民の参加を広く呼びかけるとともに、参加体験を通して団体活動の拡充に努めます。また、吉敷の美しい自然の移り変わりや地域住民の活動等を動画に残し、地域の紹介や地域住民へ広く知らせることでPRに努め、地域への愛着が持てるような企画立案を図ります。</p>	
	<p>実施時期</p>	<p>通年</p>	
	<p>参加人数</p>	<p>地域住民</p>	
	<p>成果</p>	<p>地域交流センターを定期的に利用して活動している団体の日頃の様子を動画にし、令和4年度の吉敷ふるさとまつりの会場において紹介しました。地域内で咲く桜の花や春の花、ホテルの乱舞などを記録に残しました。</p>	
	<p>評価</p>	<p>日頃見ることが少ない団体の活動風景は、知り合いの活動や、新しい活動団体の発見につながると思われます。季節ごとに咲く花や景色の移り変わりは、その瞬間が大切なことから、日頃からの情報収集などにも努めることができました。</p>	
	<p>今後に向けて</p>	<p>引き続き、地域で活動している団体の活動風景を動画に収めたり、美しい地域の風景等を残し、広く地域住民に紹介することで、団体活動の拡充や地域への愛着の醸成に努めます。</p>	